



日本大学三島高等学校

同窓会会報

第 14 号

昭和60年 3月 1日
静岡県三島市文教町 2
日大三島高校同窓会 発行

あらたなる発展へ

会長 高田 菊平



会員の皆様方におかれましては、お変わりなくそれぞれ御活躍のこととお慶び申し上げます。会員の皆様方のかわらぬ御支援、御協力によりまして大過なく同窓会が運営されておりますこと、大変ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は母校の歴史の中に、春の甲子園選抜野球大会初出場という輝かしい一ページをかざることが出来ましたこと、又、柔道部が全国大会へ出場ベスト8の成績を残すことが出来ましたことなど大変よろこばしい一年でありました。それにつけて、会員の皆様方にはひとかたならぬ御支援、御協力をいただき同窓会としての

力を発揮することができ、おかげ様で成功裡に事が終了いたしましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。そしてさらに柔道部は、今年も東海大会において優勝し、二年連続、全国大会出場の栄誉を勝ち得たのであります。このことは、言うに及ばず、母校そのものの榮譽であり、同窓会員すべての喜びとするところでもあります。三月二十一日、日本武道館での活躍と健闘を、心から願いたいと思っております。

これら一連の状況の中で会員の皆様方は母校に対する想いをあらたにしたことでしょうか、又その心の中に高校時代の思い出が走馬燈のようにかけめぐったことでもありません。

その支援活動の中で感じましたことは、会員の皆様方が健全に活躍されておられることであります。大変多くの方々から支援をいただいたその実績をみましても実証されるのであります。そしてその力が年々増してきて、世間

で確固たる地位、基盤を築きあげていることを感じるのであります。

同窓会にとりましても大変良い機会を与えられたわけでありますが、これを期に会員相互の連絡が密にとれるように早急に会員名簿の発行をしていかななくてはなりません。そしてさらに連帯感を強め、あらたな同窓会活動へと進めていかななくてはならないと思っております。同窓会創立以来すでに二十三年が経過し、会員数も約二万六千名にも達する大世帯となっております。それだけの力を誇示出来るような活動が年々同窓会に求められてくることと思っております。その為にもお互に今後何を為すべきかあらたに考えていかななくてはならない時期にきていると思っております。会員の皆様方の貴重な御意見をぜひ聞かせてほしいと思っております。皆様方のかわらぬ御支援と御活躍をおねがいし、御挨拶といたします。



桜陵祭 体育大会風景

高田菊平氏の紹介

氏は、母校の第一期生であり、昭和五十三年四月より、第三代目の同窓会々長として、また、五十九年からは、日本大学三島学園体育奨励会々長としても、その任をつとめています。

氏は現在、三島市にあるニュー・デルタ工業株式会社の社長として、大変に多忙な日々を送っています。

氏の温厚なる人柄と、エネルギーな活動力は、母校同窓会員の深い信頼を集めています。

御挨拶

校長 北岡 功



世界史は、とりもなおさず世界の審判を裏づける、とはドイツの詩人の言葉ですが、皆さんのきびしい審判に対し、今年もどうやらそれにお応えすることが出来そうでございますことをまず以てお知らせしておきます。

大学への進路状況も、もちろん中間展望の段階ですが、昨年度のアベレージを上まわる結果に落ちつくメドがついたようでございます。ここ数年來、本学各学部への進学競争率は年ごとに高まるばかりで、付属校とはいえ、決して安閑とはしておれず、皆さんが築かれた進学へのすばらしい伝統を保持するの、放課後の特訓授業などを通し懸命に立ち向かっている

ことをもこの際付記させて頂きま

す。
ご周知の通り、昨春の野球部による甲子園出場、ならびに柔道部による武道館出場を皮切りに、生徒会各部の活動もこの一年間皆さんのご期待にそうことが出来、ホッとしている所でございます。詳細は事務局が一括して本紙に載せられることと存じますので、それを以て全体の流れをご承知おき願います。ちなみにここ数年來、県下制覇さらには東海一円の雄として全国大会に出場しております部に、柔道・水泳・テニス・スケートなどがございますが、これに続くものとして剣道・体操・バレー・陸上・卓球などがあげられます。

また文化部内の全国レベルの栄冠を、ここ数年來獲得しておりますものに、美術・写真・放送の各部がその名をつらねておりますことをも改めてご承知おき願います。

〔訃報〕

鈴木昇六先生御逝去



昭和五十九年二月十七日、日本大学三島学園顧問の鈴木昇六先生が逝去されました。

先生は、昭和二十一年五月、三島の地に予科が開設される際、事務長として赴任されました。それ以来三十七年余を、三島学園発展のために尽くされたのでした。

現在、この三島学園の勇壮な姿を見る時、先生の力の偉大さを思わずにはいられません。先生の御霊に心よりの哀悼を捧げます。

存じます。

それもこれも、皆さんの陰に陽にのOBとしての暖いご支援の賜ものと感謝している所でございます。近くは柔道部が東海四県の覇者として全国大会に臨むことに決定しましたので、昨春同様、倍旧のご声援を賜りますようお願いする次第でございます。

まだまだ文武両道の完成には、その道は遠うございますが、これから部活生が全校生徒の60%を占め、着々その歩を固めている所でございます。このたびの卒業生を含め、これら在籍の後輩の歩ゆみは、何かまた別の形をもった同窓会のカラーが彩られていくような示唆を私は肌で感じるものでございます。どうか皆さん、この新しい芽を育ててやってください、お願いいたします。

と申しますのも、昨今の若者は余りにも集団のもつ協調精神をもたなさすぎます。それがひいては社会生活の中でも連帯感の稀薄と集団の埋没化にまでつながっているものでございます。人間疎外はもとより、同窓生同志の相互疎外にまで及ぶあわれな若者が多すぎるといふことでございます。

どうか皆さんの手で、母校愛とは何かの本意を事あるごとく折あるごとの集いで教えてやって下さい。お願いします。少なくとも、それに応え得る素地は植えつけて来た、と私どもは自負しております。そのためにも、根気よく人間交流をかかわれながら、このたびの新人会員をひき出してやってください。恣意的な集いでは駄目でございます。テーマなき呼びかけでは駄目でございます。参加してよかった、話しあってよかった、という会にされますよう、老婆心ながらご忠告申しあげる次第でございます。

昭和五十九年度 事業報告

けでは駄目でございます。参加してよかった、話しあってよかった、という会にされますよう、老婆心ながらご忠告申しあげる次第でございます。

からも、最後はそのクラス全体の興隆に貢献し協同するのが、競争の真意・理念であることを彼らに云いつづけ啓蒙してあることを蛇足ながら付記させて頂きます。皆さんそれぞれの分野での活躍を心よりお祈りいたします。(六十・二・一)

一、総会

五月十九日(田代パレス)

一、会長挨拶

一、議事

(1)昭和五十八年度事務報告

(2)昭和五十八年度決算報告

(3)役員改選の件

(4)昭和五十九年度事業計画

(5)昭和五十九年度予算案

(6)その他

二、懇親会

二、幹事会

一、二月十六日 於「母校」

〇拡大幹事会(募金活動の件)

二、三月九日 於「母校」

〇拡大幹事会(募金活動の件)

三、三月二十一日 於「母校」

〇拡大幹事会(募金中間報告)

四、四月十七日 於「母校」

〇拡大幹事会(募金活動報告)

五、五月四日 於「櫻」

〇五月十六日 総会の件

六、七月九日 於「櫻」

〇納涼船の件

八、十一月八日 於「櫻」

〇同窓会費の件

〇会報の件

〇新入会員入会式の件

九、一月十九日

〇第二十五期生入会式の件

〇会報発行、会費値上げの件

三、事業

一、選抜高校野球支援

二、選抜柔道大会支援

三、納涼船 七月二十二日

四、二月十六日 於母校八号館

〇同総会入会式(二十五期生)

〇記念講演会

「鍛える」

野球評論家 荒川博氏

五、三月一日

〇同窓会報(第十四号)発行

四、支部

〇熱海 三月五日(後楽園)

〇田方 五月十二日(洋らんパーク)

〇沼津 二月十六日

〇富士 二月二十日(大月食堂)

〇募金活動支部

小田原・熱海・御殿場・三島・田方・沼津・富士・清水・静岡・浜松

五、その他

一、忘年会

十二月五日 沼津釜山

二、事務局会 三回

三、その他各クラス・各クラブ 同窓会

新入会員を迎える

ご挨拶

幹事長 遠藤 日出夫(二期)



二十五期生の皆さん、同窓会入会を心より歓迎申し上げます。皆さんは、昭和六十年という人生においての還暦と同じ年に同窓会員として、新たなスタートをきったのです。皆様は高校最後の年に、母校野球部の甲子園出場、また、柔道部の全国大会出場と、思い出深い高校生活を送ることができたのです。これは、永き人生において二度とない思い出であります。さて、日大三島同窓会は全十一支部(本会報七ページ参照)から成り、母校建学の精神にのつと

り、会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することを目的として活動しています。事業(二ページ参照)としての主なものは、二月の同窓会入会式、記念講演会、四月の総会、七月の沼津港より船を貸切つての納涼船などです。さらに各支部においても、入会式、ボーリング大会、ソフトボール大会、綱引大会など、多彩な行事が行われ、各地域での友愛を深め合っています。人間は、理想に憧れてそれに近づき努力はしながらも、享楽的生活に流れやすい習性をもっています。苦しさに耐え、克服してゆくという人生は、なかなか一人では生きてゆけるものではありません。今日からは、母校同窓生としてお互いに頑張りましょう。

岡田広之先生
日本語教師として
中国へ



母校教諭、岡田広之先生が、昭和六十年四月から六十二年三月ま

での予定で、静岡県教育委員会派遣、中華人民共和国、日本語教師として、哈尔滨师范大学へゆかれることになりました。出発は三月十九日の予定です。聞きおよぶところでは、哈尔滨は大変に寒い所で、冬はマイナス二十度にもなるとのこと。この度の、先生の若々しい情熱とその決意に、心よりの敬意を表すと同時に、先生のご健闘をお祈り申すものであります。

歓迎のこぼ

同窓生の絆と母校の発展

矢部 裕 淑(十四期)



第二十五期生の皆さん、卒業おめでとうございます。我が日大三島高校の同窓会は、皆さんを迎えることにより、約二万七千名もの会員で組織されることになりました。同窓生にとつて母校の発展は大きな喜びであり、それは同窓生

一人一人の活躍にかかっていることは言うまでもありません。同窓会の発展はとりもなおさず母校の発展に結びついていくものであると強く確信しております。昨年は、野球部が念願の甲子園初出場を果たしました。試合でも応援でも、この二十五期生が中心になって活躍し、あの劇的なサヨナラ大逆転の場面で、みんなが一つになって喜びを分かち合ったことは、一生忘れることのできない思い出となることでしょう。そして、その甲子園出場の成功の陰

新入会員の言葉

校訓に恥じないように

泉

利次 (二十五期)



私達、五十九年度卒業生は第二十五期生として、同窓会に入会させて頂くことになりました。高校生活三年間というのは、実社会へ飛び立つためのステップのようなものであると思います。勉強、部活、クラス、すべて無駄なものはないはずでしょう。三年間で体験した事すべてがすばらしい

成功に繋がるはず。私達の進む道は進学、就職と、それぞれであります。これからの長い社会生活の中で、諸先輩らの御指導、交流を持つことも今までの以上に多くなることでしょう。その際には、厳しく御指導のほどをよろしく願ひ致します。高校を卒業すれば、私達は皆、社会人として認められるわけですから、自分自身に責任を持った行動をしなくてはなりません。校訓「自由と規律」に恥じないように、そして日大三島の名を汚さないよう精一杯の努力をしていきますので暖く見守ってください。

に、本校同窓会の力があつたことを忘れてはなりません。

今、皆さんは三年間の貴重な思い出を胸に、新たな目標に向って羽ばたこうとしています。真の喜びは幾多の試練を乗り越えて初めて訪れるものです。辛く苦しい事に出会ったら、母校で得た多くの教訓を生かして、乗り切つて欲しいと思います。母校と同窓会、そして日本の未来は皆さんの双肩にかかっています。諸君の活躍を心から期待しています。



二十五期生クラス幹事

- 三の一 伊藤篤志
- 三の二 長谷川克也
- 三の三 泉 利次
- 三の四 西島博幸
- 三の五 三澤哲也
- 三の六 小野英樹
- 三の七 大澤和司
- 三の八 土屋博光
- 三の九 野田和馬
- 三の十 内田 敦
- 三の十一 笈川健也
- 三A 辻村直子
- 三B 佐藤ユウ子
- 三C 井上篤己
- 三D 相馬千鶴子
- 三E 伊藤裕子
- 三F 山田幸代
- 三G 福原美奈
- 三H 笹川伸子

〈柔道部〉

- 全国総合体育大会
 - 団体 ベスト 8
 - 個人 (軽重量級) ベスト 8 川口 喜靖
- 国民体育大会秋季大会
 - 秋山 勝彦が出場した。
- 県高校新人柔道大会
 - 一部 優勝
- 高校柔道選手権東海大会
 - 団体 優勝 (全国大会出場)

〈庭球部〉

- 全国総合体育大会
 - ダブルス ベスト 16 森川・里見組
- 国民体育大会
 - 森川 栄子が出場した。
- 静岡県新人大会
 - 団体 (女子) 優勝
 - シングルス 優勝 森川 栄子
 - 準優勝 里見 幸子
 - ダブルス 優勝 森川・里見組
- 全国高校庭球大会
 - 団体 第 3 位 (全国大会へ出場)
- 全日本室内選抜東海大会
 - シングルス 優勝 森川 栄子
- 第七回全国選抜高校庭球大会出場
 - 3月22日～26日まで福岡県久山町久山RTCで行なわれる選抜大会に女子団体として出場が決定した。
 - 主将 森川 栄子
 - 選手 里見 幸子
 - 〃 高遠 和美
 - 〃 小塚あゆみ
 - 〃 鈴木恵美子
 - 〃 後藤 輝子

〈スケート部〉

- 全国高校スピードスケート県予選
 - 男子500m 第1位 (大会新) 望月賢一朗
 - 1500m 第1位 望月賢一朗
 - 5000m 第1位 (大会新) 杉浦 英明
 - 2000mリレー 第1位 (大会新) 望月・昆・勝又・杉浦
 - 1500m 第1位 (大会新・県高校新) 古屋 治代
- 以上 総合 優勝 (15連勝)

〈剣道部〉

- 全国総合体育大会
 - 個人戦に森 勝則が出場した。

〈陸上競技部〉

- 全日本ジュニア陸上県大会
 - 少年A男子800M 第1位 土屋 伸二
 - 少年A女子100M 第3位 萩原 知子

〈卓球部〉

- 全国選抜卓球選手権県大会
 - 団体 (男子) 第3位

〈水泳部〉

- 全国高等学校総合体育大会 (インターハイ)
 - 自由形 (100M・200M) 寺田 孝徳
 - 自由形 (1500M) 芦川 英紀
 - 蝶 永 (100M・200M) 中村 俊久
 - 〃 加瀬沢哲也
 - 〃 (200M) 伊藤 輝寛
 - 背 泳 (100M・200M) 羽根田匡弘
 - 〃 新庄 健吾
 - 個人メドレー (200M・400M) 藤浦 賢知
 - 〃 浅田 英幸
 - 〃 羽根田和幸
 - 自由形 (100M・200M) 佐藤 明美
 - 〃 日吉 裕子
 - 〃 (200M) 牧田美智子
 - 〃 (800M) 林 久美子
 - 平 泳 (100M・200M) 小野寺和恵
 - 蝶 泳 (100M・200M) 松澤享子
 - 背 泳 (1000M・200M) 佐川由起子
 - 〃 (100M) 木俣 光恵
 - 800Mリレー (男子), 400Mリレー (男子・女子), 400Mメドレーリレー (男子・女子) に出場
- 全国総体県大会
 - 学校対抗 男子優勝・女子準優勝
- 全国総体東海大会 学校対抗 男女共第3位
- 国民体育大会夏季大会
 - 8名の選手が出場し、各種目で大いに活躍した。
- 静岡県新人大会
 - 学校対抗 男子優勝・女子準優勝
 - 100M蝶泳 第1位 伊藤 輝寛
 - 100M・200M背泳 第1位 新庄 健吾
 - 400Mメドレーリレー (男子) 第1位

〈体操部〉

- 県新人体操大会
 - 団体第2位
 - 種目別 吊 環 第1位 藤原 政幸

○全国総合体育大会

個人で小宮山修司が出場した。

〈サッカー部〉

- 全国総合体育大会県大会 準決勝進出



清水商業との試合風景

— 文化 部 —

〈放送部〉

- 第31回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会
 - アナウンス部門 大木雅博 優秀賞
 - 研究発表部門 ビデオソフトの管理と活用 //
- 第31回NHK杯全国高校放送コンテスト県大会
 - テレビ番組課題部門 翔べ!白球!! 第1位
 - テレビ番組自由部門 未来は私たちの手で 第2位
 - ラジオ番組自由部門 時代と共に 第3位
- 第22回全国高等学校放送コンクール
 - ラジオ番組部門 わたしたちは、今… 優秀賞
 - 映像番組部門 とべ!白球!! //
 - アナウンス朗読部門 針生千香 奨励賞
 - 奈良まなみ 中部地区奨励賞
 - ラジオCMの部 伊豆のわさび 奨励賞
- 全国高校生ポスター・絵画・写真・映像コンクール
 - 映像部門 未来へチャレンジ! 銅賞
- 第5回静岡県高校新人放送コンクール
 - アナウンス部門 天野美子 優勝
 - 杉山由紀子 準優勝
 - 朗読部門 関本博子 入賞
 - 勝又淳至 //
 - 永井保光 入選

〈写真部〉

- 第15回全国高等学校クリエイティブコンテスト
 - 学校賞受賞 二席 山本 仁
- 第8回全国高校野球フォトコンテスト
 - 特選 松下嘉彦
- 第6回けんみんテレビ全国高校野球フォトコンテスト
 - 最優秀賞 小沢好幸
- 朝日作文・小論文・フォト&エッセーコンクール
 - フォト&エッセーの部 佳作 芹沢くみ子



写真部活動風景一甲子園一



徳堂 昇先生御逝去

〔訃報〕

昭和五十九年五月一日、母校教諭の徳堂昇先生が逝去されました。先生は保健体育を担当され、またバスケット部の顧問としても大いに活躍されました。先生の人柄は心暖かく、常に優しい笑顔をたたえていました。しかし、放課後の大講堂に移ると、バスケットに懸ける情熱を大声で現わし、部員達を激励しておられました。先生の御霊に心より哀悼の意を捧げます。

〈美術部〉

- 第18回全国高校生ポスター・絵画・写真・映像コンクール
 - 最優秀学校賞・文部大臣奨励賞・毎日新聞社賞受賞 銀賞 七部清人
 - 佳作 森川朕光 内田英樹
- 第15回全国高等学校クリエイティブコンテスト
 - 学校奨励賞（デザイン、アニメーション部門）受賞 一席 宇多路子
 - 三席 高村しのぶ 相山和久
- 第10回全国デザインコンクール
 - 入選 大川真理 佐藤智明
- 第4回全国高校生美術作品コンクール
 - 銅賞 小泉賢司
- 高校野球ポスター原画コンクール
 - 佳作 三枝良司 荻原厚司
 - // 森末有美
- 全国高校生イラストコンテスト
 - 特選 宇多路子
 - 入選 佐藤智明 木村有美
- 薬物乱用防止ポスターコンクール
 - 最優秀賞 大川真理
- 交通安全シンボルマークコンクール
 - 優秀賞 土屋みゆき



柔道部

— 柔道部選手紹介 —

氏名	出身中学	身長	体重	胸囲	得意技
秋山勝彦	大淵中	173 cm	90 kg	110 cm	内股
川口喜靖	三島南中	177 cm	85 kg	105 cm	大外刈
小井出佳夫	田子ノ浦中	168 cm	87 kg	110 cm	背負投
佐野隆一郎	三島南中	165 cm	117 kg	124 cm	一本背負
丸川岳浩	函南中	171 cm	63 kg	93 cm	内股
高崎利彦	清水中	167 cm	68 kg	90 cm	背負投
長沢隆浩	函南中	マネージャー			

連続 日本武道館へ!!

柔道部は、高校柔道選手権東海大会において団体優勝しました。それによって、3月21日日本武道館でおこなわれる全国大会に出場します。皆様のご声援を心よりお願い致します。



出場選手

健闘を期待する

柔道部OB会長

会長 玉井 完 一 (三期)

第七回全国高等学校選抜柔道大会出場おめでとうございます。昨年の第六回大会に引き続き連続出場になった訳ですが、これも一重に選手諸君の努力の結晶であり、諸先生方の深い理解と御指導・御支援の賜ものであると思います。我が柔道部は過去全国大会出場七回を数える歴史がありますが、昨年の選抜大会と夏の全国高校総合体育大会の全国ベスト8入りは、全国に「静岡県に日大三島高校柔道部あり」と再認識させ、我々OBとしても、言葉で言い表わすことが出来ない程の喜びと選手への力強さを感じております。今年、ベスト4、あるいは優勝へと目標を持つ諸君です。我々OBが成し得なかつた成績を

挙げることに確信しております。静岡県の代表として、東海四県の優勝校として、胸を張り、選手

第二十五期生

同窓会入会式

内藤茂樹君に奨学金贈られる

二月十六日

さる二月十六日(土)、母校の八号館講堂において、第二十五期生の同窓会入会式が実施されました。会長・母校校長挨拶のあと、新入会員九百二十名を代表して、笠井克哉君が入会の喜びと抱負をのべました。

また、本年は同窓会奨学金制度に該当する者として、内藤茂樹君に同窓会より奨学金十万円と賞状が授与されました。

なお、野球解説者・巨人軍インストラクターである荒川博氏による、「鍛える」と題した一時間半の記念講演は好評を博しました。



授与式風景

諸君の団結で力一杯戦って来て下さい。OBを代表し健闘を期待しております。

甲子園を振返って

部員達の練習が花開き、同窓会や学校関係者の待望久しかった甲子園が現実のものになった昨年の選抜高校野球大会においては、皆様には多大な御尽力を物心両面に亘っていただきまして誠にありがとうございました。

新入部員31名、残った選手は転校生を含め15名。何回もやめようとし、思い留った彼等の忍耐が甲子園への道をつけたといっても過言ではない。勿論、先輩達が培ってきたものがよく実ったというところでもあります。先輩がいる

野球部長 前田 健 一

から先輩が育つ。みんなで獲得した甲子園なのです。11月6日に東海大会が終り月末までに資料を出すべく、整理に徹夜を強いられ、ようやく間に合わせたものの、粗の上に乘せられてのイライラ。

2月1日、出場決定の報に安心したものの、また別の心配。そうした中で各報道機関の取材攻勢、次々にくるアンケート調査をこなす関係機関に御挨拶をすませ、やっと甲子園へ。毎日異なる練習会場、入場券確保の問題。「どうやら開会式、晴がましい選手の顔。

第四日目、地元三国丘高は50年ぶり。甲子園球場は人また人、熱気がこたまし何とも形容の仕様がな。逆転勝利に沸く応援団。翻る校旗。ほっとして宿舎に帰るとり。甲子園署に出頭せよ。応援パスが多すぎた。やれやれの連続でした。

今、球児達は野球で得た財産を背に、それぞれの進路を目指しています。新たな同窓生として活躍してくれるものと期待しています。また、先輩達が明日の甲子園を夢みて励んでおります。今後とも母校日大三島のために、暖かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。申し上げまして御挨拶と致します。

支部だより

「甲子園」の喜びの輪を広げて

富士支部長 西村 雅幸 (二期)

富士支部では、母校の甲子園出場
の朗報とともに、同窓会富士支
部としての寄付金集めについて幹
事会を開いた。同窓仲間からの積
極的な協力や問い合わせもあり、
活動も盛り上がり続けた。一期の
渡辺さんの「大月食堂」での打ち
合わせ(富士支部の定例場所)で
は、活発な意見が交され、名簿の
手分け、分担範囲を確認し、活動
にとりかかった。富士支部バスチ
ャーターの準備にも入った。寄付
金集めの反応は様々で、同窓会活
動のむずかしさとすばらしさを改
めて感じさせられた。何回かの中
間打合せでは、好成果が集計され
報告された。

結果、富士支部としては、予想
以上の寄付金を集め、支部同窓会
員の絆の強さを再確認できた。頭

初の心配事も、我々の実行精神に
よって払拭された。「甲子園」の
快挙は、同窓会の絆を更に固める
よい契機となった。
要するに、我々同窓生の「絆」
は、意気感すれば大きく燃え、行
動力を発揮するということだ。

富士支部では、他の支部活動に
追いつくためにも、綱引き行事の
復活、中央行事への積極的参加を
図るとともに、富士支部の特色を
うちたてるべく着実な活動を推し
進めてゆきたいと念じている。

連帯感

沼津支部長
今井 信之 (二期)

沼津支部も各支部同様に五十九年

度が明けると、学校創立以来の待
ちに待った野球部の甲子園出場が
決まり、誠に良い年の始まりにな
りました。

沼津支部は前年(五十八年)の
沼津市議会議員選挙の滝口君の立
候補及び当選と、沼津支部を盛り
上げる格好の体制作りができ、今
まで音信不通の友人からも連絡が
入る程になり、二月の沼津支部総
会は盛り上りを見ることができま
した。

野球部の甲子園出場は卒業生全
員の志気を高めるとともに、連帯
感を強くもたらしてくれました。
二十数回の卒業生が今までに出
ていますが意外と身近なる人々が先
輩、後輩になる機会がもてまし
た。「甲子園出場ありがとう」が、
みんなのいつわらざる気持と思
います。甲子園の熱戦はいうまでも
ありません。又甲子園出場をお願
いします。

沼津支部では、十月に第一回の
ゴルフコンペを沼津カントリーク
ラブで行い、一期生から十六期生

の方達が出席され、天気にも恵ま
れ、ほかのコンペでは味わう事の
できない同窓の和という中で、後
輩達と有意義な一日を過ごす事が
でき、成績をどがいた盛り上りを
見る事ができました。次回開催は
多数の参加をお待ちしております。
各幹事の皆様ご苦労さうさんで
す。

大仁分科会発足

田方支部長

野田 昭二朗 (二期)

昨年は、各支部の皆様ともにさ
ぞかし忙しい年であったことと思
います。我が田方支部も、甲子園
出場という喜びの中で健闘してき
ました。会員の皆様へ心からの御
礼を申し上げます。

田方支部は、ご存じのように地
理的に広いという特色がありま
す。そのところに会員の皆様の
ご苦労があったのではないと思
います。しかし、中伊豆、湯ヶ
島、修善寺、大仁、長岡、葦山、
函南、それぞれの代表者を通して
の活動は、単に甲子園だけのもの
ではなく、広く同窓会の仲間づく
りに役立ったものと信じておりま
す。

その代表的な現われが、大仁町
において正式に分科会が発足した
ことでもあります。以前から、三期
の山田守宏君が大仁のまとめ役に
あたっていました。昨年五月十
二日より、一期の牧野英一君が分
科会長の任につきました。

このことは、支部活動の発展は
もとより、同窓会員の心のつなが
りとして、誠に喜ばしいかぎり

あります。いっどこで顔を合わせ
たとしても、気がするに話ができる
ところに、地域を基盤とした支部
の意義があると信じます。
五月十二日には、洋ランパーク
において支部会員の慰労会を盛大
におこないました。誰もが、一つ
の仕事を成し遂げた満足感とも
に、新しい絆と発展を約束してい
ました。

母校愛

熱海支部長

谷口 俊二 (二期)

各支部同様に、熱海支部も大変
に忙しい昭和五十九年でした。

まずは、三月五日に後楽園ホテ
ルにおいて支部総会を開きまし
た。いつもならば、新入会員を迎
えて四月当初におこなうのです
が、野球部の甲子園出場決定にと
もない、支部としての援助活動を
始めなければならなくなり、三月
に早めたわけです。その結果とし
ては、言うまでもなく支部会員の
皆様から多大なる援助を受けたの
であります。

三月二十九日の第一戦には、野
球部父兄会やOBなどが結集し
て、バス九台で応援に駆けつけま
した。四月一日の二回戦には三台
でしたが、三回戦に進んだ時には
多くの会員が大阪に泊りこむ覚悟
でした。結果は誠に残念なもので
したが、これらの体験こそが、母
校愛そのものではなかつたかと思
い出されます。

各支部長一覽

支部名	氏名	住所	TEL
三島	久保田 光	駿東郡清水町柿田九	(0552) 711-1922
田方	野田 昭二朗	田方郡修善寺町柏久保六三三-四	(0556) 721-0277
沼津	今井 信之	沼津市市場町一〇-一	(0552) 311-7878
御殿場	武藤 康徳	御殿場市新橋一九七六	(0556) 212-2844
裾野	勝又 国佳	裾野市深良一五五一	(0559) 711-392
富士	西村 雅幸	富士市松岡一三〇四-一七	(0545) 611-5175
富士宮	秋山 一雅	富士宮市浅間町四-一五	(0544) 261-3848
清水	久保田 容弘	庵原郡富士川町岩淵七八-一三	(0545) 811-0888
静岡	松下 悟	島田市横井四-一-二三	(0542) 451-8315
熱海	谷口 俊二	熱海市上多賀九二〇-一	(0557) 681-4022
小田原	川口 功一	小田原市東町四-一〇-一	(0456) 341-0464



日本大学三島高等学校

同窓会規約

第一章 総則

第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。
第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。
第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもって正会員とし、現教職員および元教職員をもって特別会員とする。
第四条 本会は、母校建学の精神にのっとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することを以て目的とする。
第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。
一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事
二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加
三、その他、目的達成のために必要な諸行事

第二章 機関

第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。
一、総会 二、幹事会 三、支部会 四、事務局
五、編集委員会

第一節 総会

第七条 総会は本会運営の最高決議機関である。総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。
但し、必要により各支部を代表する支部長をもって、総会の決議にかえることができる。
第八条 総会は本会運営についての立案実行の一切の事務を幹事会に委嘱する。
第九条 総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項に関し、会長が認めた時、又は会員多数の要求があつた場合、会長は臨時に召集しななければならない。

第二節 幹事会

第十条 幹事会の運営機関として左記の事項を立案し総会の承認を経たのちこれを実行する。
一、予算・決算に関する事。
二、事業計画に関する事。
三、会則の改廃に関する事。
四、その他、第五条によって必要と認めた事項。
第十一条 幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のもとに開催する。また、幹事長は幹事の三分の一以上の要求があつた場合は、臨時に幹事会を召集しななければならない。
第十二条 幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他、必要とする役割を置き幹事会の互選により選出する。
第十三条 幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員

第十四条 幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。
第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。
第十六条 支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。
第十七条 事務局は幹事会のもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める。
第十八条 事務局は幹事会より委嘱された者をもって構成する。
第十九条 編集委員会は幹事会に所属し、原則として年度一回の会報発行、その他、本会運営上、必要なる広報の任にあたる。
第二十条 編集委員会は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

第三節 支部会

第二十一条 本会は左記の役員を置く。
会長一名 副会長一名 幹事長一名 副幹事長二名 幹事、常任幹事、会計監査二名
第二十二条 会長、副会長は、幹事会の推薦により、総会の決議をもって選出する。会長は本会を統理し、副会長はこれを補佐する。
第二十三条 幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。
第二十四条 副幹事長は幹事長を補佐する。
第二十五条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。
第二十六条 常任幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。
第二十七条 会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。
第二十八条 各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

第四節 事務局

第二十九条 本会の経費は会費ならびに寄附をもってこれに当てる。正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。
第三十条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。
第三十一条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得、これを表彰することができる。
第三十二条 会員として名譽を毀損する行為があつたときは、会長が幹事会の議により総会の承認をえ、これを除名することができる。
第三十三条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に応える。

第五章 表彰・その他

第三十四条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に應える。
第三十五条 規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。
第三十六条 制度施行 昭和三十六年三月十一日
改正施行 昭和四十七年四月一日
改正施行 昭和五十三年四月三十日

表彰規定

前文 本規定は日本大学三島高等学校同窓会規約第五章三十二条に基き、その適用細則を定めたものである。
第一条 本会々員にして、社会的に顕著な業績をあげた者に対し、所定の手続きを経て表彰することができる。
第二条 日本大学三島高等学校に在籍する者で、将来、国家社会に貢献し、母校及び本会の発展に寄与できる有為な人物及び団体に對し、奨学金又は奨励金を支給することができる。

第一条

奨学金の支給をうける者は、最終学年に在籍し、在籍期間中、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ有為な人物として学校長より推薦された者とする。ただし奨学金は一名を原則とする。
奨励金の支給をうける団体は、生徒会所属の団体で、顕著な業績をあげ更に一層の充実・発展が期待されるものとして、学校長より推薦された団体とする。ただし奨励金は一団体を原則とする。

第二条

第一条、第二条の表彰式は、年度末とし、総会または入会式に行う。
付 本規定は昭和五十二年二月十二日より施行する。